

台湾との技術交流の報告2025

水循環・まちづくり・防災グループ 阿部 充

1. はじめに

公益財団法人リバーフロント研究所では、2001年に締結された備忘録に基づき、台湾との河川・水辺環境分野に関する技術交流を継続して実施しています。令和7年度は、「気候変動下における水資源の開発・管理に関する適応戦略」をテーマとして、10月に台湾を訪問するとともに、11月には台湾からの訪日団を受け入れ、意見交換及び現地視察を実施しました。

2. 台湾訪問

令和7年10月27日から31日にかけて、内藤正彦業務執行役、清水晃水循環・まちづくり・防災グループ長及び筆者が台湾を訪問し、「Taiwan International Water Week (TIWW) 2025」に参加するとともに、日台技術交流フォーラムへの登壇、現地視察等を実施しました。

TIWW2025では、「Smart Watershed, AI-Driven Innovation」を全体テーマとして掲げ、AI・IoT・ビッグデータ等を活用した次世代型の水管理に関する議論や展示が行われました。

日台技術交流フォーラムでは、台湾側から、2021年以降の大規模渇水を踏まえた水資源管理の課題や、地域間の水融通、段階的な渇水対応、水再利用、海水淡水化等の取組について紹介がありました。これに対し、日本側からは、水循環基本法や流域総合水管理の考え方をはじめ、近年の渇水対応、地下水保全、ダム運用の高度化、水の再利用や海水淡水化等について紹介を行い、活発な意見交換が行われました。

また、現地視察では、石門ダムの阿姆坪排砂トンネル、金瑞治水園區等を視察しました。



図 フォーラムでのパネルディスカッション

3. 訪日団の受入れ

令和7年11月10日から14日にかけて、台湾経済

部水利署を中心とする訪日団15名を受け入れました。受入れにあたっては、土屋信行審議役、清水晃グループ長、荒木茂次長、北澤史研究員、佐藤充人研究員及び筆者が同行し、各訪問先との調整や意見交換を行いました。

訪日団は、テーマに即して、リバーフロント研究所、落合水再生センター（東京都）、荒川第一調節池（埼玉県）、鶴田ダム（鹿児島県）、海水淡水化センター「まみずピア」（福岡県）、寺内ダム（福岡県）等を訪問し、水再利用、洪水調節、ダム堆砂対策、海水淡水化、水利用管理等について意見交換を行いました。

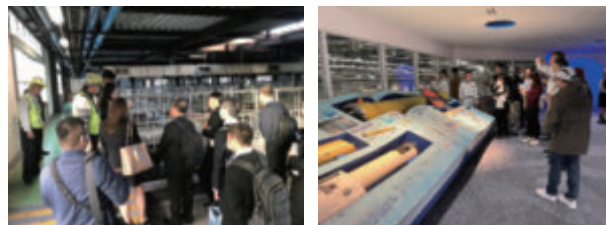


図 落合水再生センター：東京都（左）と海水淡水化センター「まみずピア」：福岡県（右）

4. まとめ

今回の技術交流では、気候変動下における水資源管理という共通課題に対し、日台双方がそれぞれの知見や経験を共有しながら議論を深めることができました。特に台湾において、総合的な水管理にAIを積極的に活用する姿勢を伺えたことが、大変印象的でした。

また、石門ダムでは、過去の交流で共有した知見が実際の施設整備や運用に活かされていることを確認でき、継続的な技術交流の成果を実感するよい機会となりました。

今後も、気候変動による水環境のリスクの増大が懸念される中、日台双方で知見共有を進めながら、河川環境分野をはじめ、水関連の技術交流を継続していきたいと考えています。

最後に、本技術交流の実施にあたり、ご協力いただいた国土交通省水管理・国土保全局、東京都下水道局落合水再生センター、関東地方整備局荒川上流河川事務所、九州地方整備局鶴田ダム管理所、福岡地区水道企業団海の中道奈多海水淡水化センター「まみずピア」、独立行政法人水資源機構寺内ダム管理所、公益財団法人日本台湾交流協会をはじめとする関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。また、長年にわたり本交流を共に推進している台湾経済部水利署の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。